

【樹木の部屋】

ハリエンジュ (マメ科ハリエンジュ属 Robinia pseudoacacia)

和名：ハリエンジュ (針槐)

別名：ニセアカシア

英名：Locust tree

マメ目 落葉高木

原産地：北米

花言葉：慕情、親睦、友情、優雅、頼られる人、死に勝る愛情

花の色： 白、桃、薄紅



← 写真-1 ハリエンジュ

撮影日：2018年04月20日

撮影場所：イオアニナ(ギリシャ)にて

撮影者：M さん

▽ 写真-2 ハリエンジュの花

撮影日：2018年04月21日

撮影場所：メテオラ(ギリシャ)にて

撮影者：M さん



↑ 写真-2 ハリエンジュの葉

撮影日：2018年04月21日

撮影場所：メテオラ(ギリシャ)にて

撮影者：M さん



ギリシャ北部の町、イオアニナとカランバカにあるメテオラを訪れた際、見かけました。写真-1は、イオアニナ要塞の中を散策中に見かけました。写真-2、3は、メテオラのヴァルラアム修道院が臨める車道沿いで見かけました。イオアニナでは、街路樹としても、見かけることができました。

日本には1873年に渡来し、街路樹、公園樹、砂防・土止めに植栽、材は器具用等に用いられるそうです。

初夏、白色の総状花序で蝶形花が垂れ下がり、葉は奇数羽状複葉で基部に1対のトゲがあるのが特徴です。

日本に輸入された当初は、このハリエンジュ(ニセアカシア)をアカシアと呼ばれていましたが、本来のアカシア(マメ科アカシア属)の仲間が日本に輸入されるようになり、区別するためにニセアカシアと呼ぶようになったそうです。が、今でも混同されることが多いので要注意です。本来のアカシアの花は放射相称の形状で黄色く、ニセアカシアの白い蝶形花とは全く異なります。

日本やヨーロッパの自然環境に定着したハリエンジュは、外来種として多くの問題も発生させているそうです。ハリエンジュが侵入したことで、アカマツやクロマツなどのマツ林、ヤナギ林が減少し、海岸域や溪畔域の景観構造を大きく改変させているようです。ハリエンジュは単独で木本の生物多様性を低下させるだけでなく、好窒素性草本やつる植物をともなって優占し、植生を独自の構成に変えてしまうそうです。とは言うものの、利用価値も高いようです。

- ・花を花穂ごと天ぷら、新芽は和え物や油炒めで食べることができます。
- ・花をホワイトトリカー等につけ込んでつくるアカシア酒は強い甘い花の香りがする。精神をリラックスさせる効果があると言われています。
- ・花から上質な蜂蜜が採れ、有用な蜜源植物と成っています。ニセアカシアを蜜源として利用する地域は東日本に多く、2005年のはちみつ生産量の44%がニセアカシアによるものだったそうです。特に長野県では、はちみつの74%がニセアカシアの花を「みつ源」としているそうです。

<ちょっと一言>

よく似た樹木にエンジュがありますが、そのハリエンジュとの違いは・・・。

エンジュ：マメ科エンジュ属。

葉は奇数羽状複葉で互生。

開花は7月～8月で円錐花序・白～淡黄色。上向きに咲く。

ハリエンジュ：マメ科ハリエンジュ属。

葉は奇数羽状複葉で互生。葉柄の付け根に1対のトゲがある。

開花は5月～6月。円錐花序・白。芳香があり垂れ下がる。